

〔白峯寺縁起〕長寛二年八月廿六日に、御年四十六と申に崩御ならせます。○崇徳、同九月十八日戌のときに、當寺の西北の石巖にて荼毘し奉る、これも御遺詔の故なり。

〔愚昧記〕安元三年五月十七日丙辰、讚岐院○德 崇御事、一以彼御墓所、勅稱山陵。

〔吾妻鏡〕元暦二年四月廿九日壬午、今日以備中國妖尾郷、被付崇徳院法華堂、是爲沒官領、武衛所令拜領給也。

〔兵範記〕久壽三年七月廿三日戊辰、午刻天皇○近 崩於近衛殿○略 中 八月一日丙子、今日近衛院御葬送也、寅刻陰陽助賀茂在憲、鎮山作所地船岡西北

〔一代要記〕久壽二年七月廿三日、於近衛内裏崩○略 中 八月一日火葬船岡西野、御骨暫置知足院常行堂

〔首練抄〕長寛元年十一月廿八日、奉渡近衛院御骨於鳥羽東殿、美福門院御塔

〔大外記〕師茂勘例外記所引 夏 建久三年三月十三日、太上法皇○白川院 崩給、十五日、法皇御葬送也、以平

生之儀、奉渡蓮華王院法花堂

〔首練抄〕建久三年三月十五日丁亥、法皇○白河 囚禮也、以御平生之儀、奉渡蓮華王院東法華堂

〔吾妻鏡〕建久三年三月十六日戊子、未刻京都飛脚參著、去十三日寅刻、太上法皇○白河 於六條殿崩御、廿六日戊戌、彼崩御事、今日具披露于關東○略 中 十五日、奉葬法住寺法華堂

〔山陵志〕蓮華王院、舊是法住寺地、法住寺爲木曾義仲所火、就其墟而所創也。

〔顯廣王記〕永萬元年七月廿九日丙子、去曉新院○二 遂以崩押小路東洞院臺、八月七日癸未、先皇

○二 御葬送也、寺原

〔一代要記〕永萬元年八月七日、葬香隆寺良野、

〔長門本平家物語〕永萬元年の春頃より、主上○二 御不豫のことおはしまし、六月廿七日、新帝○二 御